



OKINAWA MICE SUSTAINABILITY GUIDELINES

沖縄 MICE 開催における
サステナビリティ
ガイドライン

はじめに

「サステナビリティ」とは「持続可能性」を意味する言葉です。私たちを取り巻く社会・環境・経済は多くの課題を抱えています。それらの課題解決のためには、今を生きる私たち一人ひとりが次の世代をも見据えた「サステナブル=持続可能な」取り組みを継続していく必要があります。MICE の開催においても、例外ではありません。MICE には、開催によりもたらされる地域への経済効果に加え、イノベーションを生み、ビジネスや研究を促進する力があります。また、国や都市の競争力の向上にも期待が寄せられています。一方、人が集うために移動を伴い、多くの消費活動が営まれることによる二酸化炭素の排出や廃棄物に関する課題の他、ジェンダー平等や生物多様性の保護等、幅広い課題への対応が注目されています。MICE の開催に関わるすべての人に、一層の取り組みの推進が期待されています。

主催者においては、MICE 開催にあたっての「サステナブル=持続可能な」取り組みにより、主催企業・団体の社会的価値を高め、持続的な成長につながります。

一方で MICE の受け入れを行う MICE プレーヤー（事業者）においては、主催者による MICE 開催地の決定要因において重要度が高まっている「サステナビリティ」について十分な備えを行うことにより、開催地としての沖縄の価値を高め、より多くの案件の獲得とビジネスの発展につながります。

本ガイドラインは、MICE 開催地として選ばれ続け、進化を続ける沖縄の実現を目指し、主催者、事業者双方のサステナブルな取り組みを支援するツールとして策定されました。サステナブルな取り組みのためには、社会・環境・経済における課題の変化や技術の進歩等に応じて見直していくことが大切です。皆さまの身近に置き、ご活用いただけますと幸いです。



目 次

メッセージ

一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー 会長 下地 芳郎	1
和歌山大学 観光学部 教授 / GSTC (Global Sustainable Tourism Council) 理事 沖縄 MICE 開催におけるサステナビリティガイドライン策定委員会 委員長 加藤 久美	2

選ばれ続け、進化を続ける MICE 開催地「OKINAWA」

共通認識	4
行動指針	5
参考情報	
沖縄 MICE ブランド	7
沖縄の優先課題の改善に資する MICE 関連の取り組みと SDGs のゴール	8

ガイドライン活用にあたって

組織として実践するための取り組み手順	10
先進事例	
沖縄県内の事例	11
国内の事例	12
海外の事例	13

取り組みチェック項目について

取り組みチェック項目について	15
取り組みチェック項目一覧	16
取り組みチェック項目詳細	19

参考文献・資料 / 用語解説

「沖縄 MICE 開催における サステナビリティガイドライン策定委員会」委員名簿	37
--	----

メッセージ



一般財団法人
沖縄観光コンベンションビューロー 会長

下地 芳郎

沖縄における MICE 振興の最初の転換点となった「九州・沖縄サミット（2000 年）」が開催されて以来、沖縄県では国際会議を含む様々な MICE が数多く開催されてきました。2017 年 7 月には、MICE を沖縄経済成長のプラットフォーム（重要な基盤）と位置付け、産業界・大学などの関係機関と連携して多彩な MICE を誘致し、その開催により地域を活性化するための「沖縄 MICE 振興戦略」が策定されました。同戦略に基づき、産学官の協働した取り組みを推進するための組織として、沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県産業振興公社が共同事務局を務める「沖縄 MICE ネットワーク」を設立しています。

2018 年には同ネットワークにおいて「MICE ブランド部会」を立ち上げ、MICE 開催地としての沖縄が、訪れる方々へ提供できる価値として、「Where inspiration meets(ひらめきや創造性と出会える場所)」をブランドメッセージとして策定、県内事業者が一体となって本県を訪れる皆さまをお迎えしております。

そのような沖縄が今後もより多くの方々を惹きつけ、MICE 開催地として選ばれ続けるためには、これらの価値にさらに磨きをかけ、沖縄自身が進化を続けていかなければなりません。その答えの一つが「サステナビリティ（持続可能性）」です。美しい自然環境と豊かな文化、そして多彩な人々の交流を後押ししてきた歴史を併せ持つ沖縄だからこそ、その価値をより強固に、未来へと紡いでいかなければなりません。

今回はその第一歩として、「沖縄 MICE 開催におけるサステナビリティガイドライン」を策定いたしました。本書はサステナブルな MICE の開催に特化したガイドラインとして、具体的な事例やチェックリストなどを備え、本県で MICE を開催する主催者や参加者の皆さま、そしてその開催をサポートする県内事業者の皆さまがサステナブルな取り組みを進められやすくなるような作りを施しております。

これらの取り組みは、沖縄で皆さまをお出迎えする我々だけで成しえるものではなく、MICE 主催者および参加者の皆さまとの共創が重要なカギを握っております。本ガイドラインをご活用いただき、サステナブルな MICE 開催へのご理解とご協力をいただければ幸いです。

ひらめきや創造性と出会える場所であり、これからも進化を続けていく沖縄での MICE 開催が、皆さまのビジネスや研究の一助となることを心よりお祈り申し上げます。



和歌山大学 観光学部 教授
GSTC (Global Sustainable Tourism Council) 理事
沖縄 MICE 開催におけるサステナビリティガイドライン策定委員会 委員長

加藤 久美

2021 年の国連気候変動枠組条約第 26 回締約国会議 (COP26) では、パリ協定に基づく温室効果ガス削減目標への強いコミットとアクションが求められました。その会期中に、「観光におけるグラスゴー宣言」が発表され、観光業での「2050 年『ネット・ゼロ』達成」という目標が発表されたことは大きな意味を持ちます。

日本政府も 2020 年 10 月に「カーボンゼロ」宣言を行い、世界 136 カ国の仲間入りをしました。国内でも「カーボンゼロシティ」は現時点で 515 自治体、人口比で 90% となっています。この「ゼロ」コミットは、ゴミやフードロスの削減、さらにはバリアフリーやダイバーシティの促進等、各分野で展開をみせています。社会・経済活動をより「持続可能」にするためには、環境のサステナビリティと同時に、平等、連携、平和等、社会的サステナビリティの推進が求められ、ある事業をサステナブルにするためには、調達から生産、利用、そして廃棄やリサイクルまで一連のプロセスへの配慮が必要となります。学校教育でも SDGs が積極的に取り入れられ、若者の意識も変わりつつある今、未来の社会が求める価値観はこれまでとは違ったものになると考えられます。SDGs やその中心理念「誰一人取り残さない」は、大きな責任であり機会でもあります。

観光庁は持続可能な観光推進本部の設置(2018 年)から「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」の策定(2020 年)、その全国導入と、観光における持続可能性推進を加速させてきています。JSTS-D はグローバルサステナブルツーリズム協議会 (GSTC) が設定する指標 (GSTC-D: 地域版) に準拠するものですが、持続可能な観光地域づくりは、そこでの事業展開の持続性なしには成り立ちません。このような中でまとめられた本ガイドラインは、MICE 分野における持続可能な取り組みを支援し、より持続可能な MICE 開催地域づくりを沖縄から発信するものです。

沖縄では、事業者と地域が緊密な関係を持ち、サステナビリティ向上に全体で取り組むことが「SDGs に関する万国津梁会議」で提唱され、「沖縄らしい SDGs」の考えを継承した「沖縄 SDGs 実施指針」が策定されています。この地域目線に基づくサステナビリティ活用を実際の現場で示していくことは、世界的にも価値ある先進事例になると言えます。

本ガイドラインでは、MICE に関わる「MICE プレーヤー」を「主催者、企画、技術、飲食、会場、宿泊、観光、輸送」と分類しています。策定委員会では、地域の皆様の声を聞き、「沖縄らしさ」は、地域の方々の参画、地域経済、社会、環境への還元によってより発揮されることを重視しました。

持続可能な地域やビジネスを作るのは、当然ながら「人」です。サステナビリティが「終わりのない旅」であるのは、常に「より良いオプション」があるからで、自己評価、目標設定、モニタリング等を組織的、戦略的に進め、それに取り組む人々の熱意を絶やさないことが必要です。MICE 関係者の皆様がサステナビリティという共通目標に向かって取り組み、連携していくガイドラインとなることを期待しております。



選ばれ続け、進化を続ける MICE 開催地「OKINAWA」

■ 共通認識

本ガイドラインが目指す方向性

選ばれ続け、進化を続ける MICE 開催地「OKINAWA」4

■ 行動指針

MICE 主催者の皆様へ5

沖縄の MICE プレーヤー（事業者）の皆様へ6

■ 参考情報

沖縄 MICE ブランド7

沖縄の優先課題の改善に資する MICE 関連の取り組みと SDGs のゴール
.....8

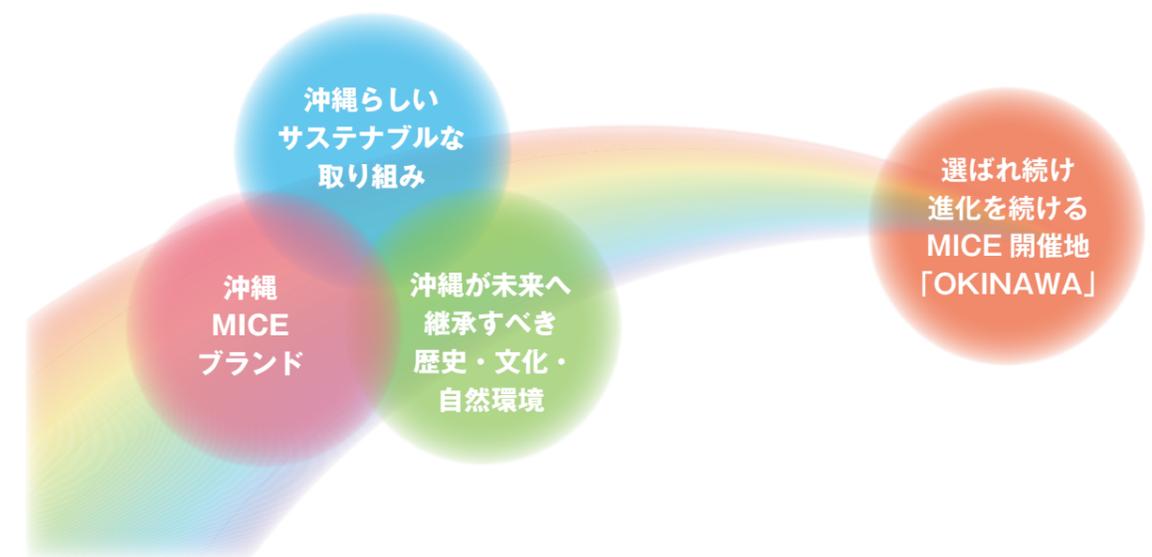
共通認識

◆ 本ガイドラインが目指す方向性

選ばれ続け、進化を続ける MICE 開催地「OKINAWA」

日本にありながら独自の歴史、文化、自然環境を持つ沖縄には、すべての人、あらゆる垣根を越えた交流と融合が育まれ、琉球の時代から今日へ、その繁栄を支えてきた万国津梁の精神が受け継がれています。国を、人を、英知を、そしてビジネスを繋ぐ沖縄は、未来を拓き、変化させる結節点となります。アジアを代表するリゾート環境を備えたビジネス都市“沖縄”での特別な体験が、明日に向けてのエネルギーをチャージし、大海のように広がるインスピレーションを湧き起こします。21 世紀のアジア発展の架け橋として進化し続ける沖縄のビジネス環境は、生み出された「価値」を未来へと繋ぎます。

沖縄が提供できる「価値」を高め私たちのビジネスを前進・発展させるためには、MICE の開催地として選ばれ続ける沖縄を共に創り上げていくことが大切です。それには、沖縄での MICE 開催に関わるすべての人が、サステナブルな取り組みについて考え、できることから取り組むこと。そして互いに連携し、継続して成長することで沖縄が提供する「価値」に「サステナビリティ」を取り込み、進化を続ける開催地にならなくてはなりません。これにより、サステナビリティに高い関心を持つ主催者から選ばれることに繋がります。



行動指針

【MICE 主催者の皆様へ】

沖縄県は、東西約1,000km、南北約400kmの広大な海域に、大小160の島々(うち有人島47)からなる島しょ県です。美しいサンゴ礁や貴重な野生生物等が織りなす豊かな自然環境や、琉球王国時代の中国や東南アジア諸国等との交易・交流によって形成された独自の文化が今も色濃く根付いています。そして、沖縄には「ぬちどつたから(命こそ宝)※1」、「イチャリバチョーデー(行き逢えば兄弟)※2」、「チムグクル(肝心)※3」、「ユイマール(相互扶助)※4」という古くから伝わる言葉(しまくとぅば)があります。これらは、沖縄の人々によって大切に継承されてきた平和の希求、多様な価値の受容、相互扶助といった沖縄の精神文化の象徴でもあります。

このような特色を持つ沖縄において、サステナブルな MICE を開催して頂くため、MICE 開催に関わるすべての人を対象として本ガイドラインを策定しました。本ガイドラインには、各実施主体のサステナブルな取り組みの理解と実践を支援するための取り組みチェック項目を設けています。

沖縄では、今まさに MICE プレーヤー(事業者)がサステナブルな取り組みを推進しています。皆さまが開催される MICE においても本ガイドラインをご活用頂くことにより、その開催価値を高め、組織やビジネス発展の一助となることを願っています。

- ※1 **命** ヌチ タカラ
命 どう宝 命こそ宝。命は何ものにもかえられない大切なものである。どんなに辛いことがあっても命を粗末にはしてはいけない。生きているからこそ、苦しいことや楽しいことを体験できるのである。首里城明け渡しの際に尚泰王が詠んだとされる琉歌に由来することば。(黄金言葉 ウチナーンチュが伝えることわざ 200 編:仲村優子編著)
- ※2 **行逢ば** イチャリ
兄弟 チョーデー 行き逢えば兄弟、何の隔てがあるか。見ず知らずの人であっても、縁あって親しくなれば、お互い兄弟のようなものである。そこには何の隔てもないという意。社会というのは助けあって成り立つものである。みんなが仲良くしなければやっていけない。だから出会いがあったらその人を兄弟のように思って大切につきあいなさいという教え。(黄金言葉 ウチナーンチュが伝えることわざ 200 編:仲村優子編著)
- ※3 **チムグクル** 心。心を強めていう語。チムもククルも心の意。(沖縄語辞典:国立国語研究所) / 心、気持ち、思いやり(みんなのうちなーぐち辞典プロジェクト:NTT ドコモ)
- ※4 **ユイマール** 順番に労力交換(ゆい)を行うこと。主として農家の畑仕事についていうが、転じて他の仕事についてもいう。(沖縄語辞典:国立国語研究所) / 賃金の支払いを伴わない労働交換の慣行。単にユイ(結)ともいう。一般的には共同的、相互扶助的なものとして捉えられているが、経営の分化が進んだ段階では経営規模の大きい農家に有利に作用したという側面も見逃してはならない。(沖縄大百科事典 下:沖縄タイムス社)

【沖縄の MICE プレーヤー(事業者)の皆様へ】

経済界・産業界ではサステナビリティに配慮した企業経営が常識となり、「ESG 投資」や「サプライチェーンの再構築」等が進んでいます。これらの社会情勢の変化を背景に、MICE 開催におけるサステナビリティに関する主催者の関心は年々高まり、MICE 開催地の決定要因における重要度も増えています。

MICE の誘致開催を促進するため、サステナブルな MICE 開催地として沖縄が持つ価値を磨き、ビジネスの獲得と発展につなげることが大切です。沖縄の豊かな自然、文化、社会の未来を考え行動することが、自社のビジネスを更に発展させる契機となります。本ガイドラインを活用し、沖縄らしいサステナブルな取り組みへの積極的な参画とパートナーシップの輪を広げることが望まれます。

●実践する行動

- 1 本ガイドラインを活用し自社の持続可能な取り組みに関する現在地を常に確認し向上をめざす
 - ・付属資料のセルフチェックシートを用いて定期的に点検する
 - ・廃棄量、使用量、頻度、コスト等、計測できる取り組みは数値化し見える化をする
 - ・取り組みや活動を振り返り、改善点を見出すことで向上を図る仕組みをつくり、継続して運用する
 - ・取り組みには、その効果が相反するものや相乗するものもあるが、最終的なゴールを意識して取り組む
- 2 沖縄の持つ価値を高め課題の解決を図る MICE 商品やサービスの開発を共に促進し訴求する
 - ・自社の MICE 商品やサービスを「沖縄 MICE ブランド」に照らし、強みを活かした改善・開発を促進する
 - ・「沖縄県 SDGs 実施指針」が示す「沖縄らしいSDGsの実現に向けた優先課題」の解決につながる改善・開発を促進する
 - ・取り組みを通して関係者が互いの強みや経験を持ち寄り、共創する環境を育む
- 3 変化を続ける MICE 主催者の関心事に応える MICE 商品やサービスの開発を促進し訴求する
 - ・現場からのフィードバックや研修等を通して主催者の関心事の把握につとめる
 - ・主催者へのアンケートやインタビューによるレビューを関係者間で共有し、共に改善する仕組みをつくる

ガイドライン活用にあたって

■組織として実践するための取り組み手順

沖縄の MICE プレーヤー (事業者) 向け……………10

■先進事例

沖縄県内の事例

ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄……………11

一般財団法人 沖縄県環境科学センター……………11

株式会社ジェイシーシー……………11

国内の事例

ヨコハマ・ウッドストロープロジェクト (ヨコハマ SDGs デザインセンター)
……………12

国立京都国際会館 (公益財団法人 国立京都国際会館)……………12

八剣山果樹園・NPO 法人八剣山エコケータリング……………13

海外の事例

ハワイ: ハワイコンベンションセンター……………13

済州: ピースビレッジ……………13

組織として実践するための取り組み手順

【沖縄の MICE プレーヤー (事業者) 向け】

大きな組織でなくても、そしてコストをかけずとも、各々の特徴を活かした独自性のある取り組みは可能です。現場で培われた経験やノウハウおよび創意工夫によって生み出された革新的なアイデアがビジネスを拡大し、組織を成長と発展に導きます。

サステナブルな取り組みを組織として実践するため、次の手順を参考にしてください。



^{*1} ライフサイクルアセスメント (LCA: Life Cycle Assessment) とは、ある製品・サービスのライフサイクル全体 (資源採取—原料生産—製品生産—流通・消費—廃棄・リサイクル) またはその特定段階における環境負荷を定量的に評価する手法です。

^{*2} スパイラルアップとは、PDCA サイクル (Plan / Do / Check / Act) において、Act での改善を Plan に反映させ、事業活動を向上させることを指します。らせんの階段を上るイメージで、PDCA サイクルを上へと伸ばしていくことです。

先進事例

【沖縄県内の事例】

ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄



ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄が位置する恩納村は、「サンゴの村宣言」を行い、SDGs の取り組みのひとつとして、赤土流出防止対策とはちみつの採取による持続可能な地域づくりを目的とした「Honey & Coral プロジェクト」を実施しています。海に生息するサンゴの育成や美しい海の景観に悪影響を及ぼす赤土の流出防止対策として、恩納村は畑にひまわり等、花の咲く緑肥作物を植えています。同時にその花を蜜源としてはちみつを採取することで農家の副収入を生み、翌年以降も持続的な赤土対策を可能にしています。同ホテルは、この活動に賛同し、収穫されたはちみつを購入し、スイーツやドリンクの開発・販売をスタート。この連携を通じ、恩納村の豊かな自然環境保全に寄与するとともに、ホテルを訪れたお客様が地元の味を楽しんでいただく機会を生み出しています。



一般財団法人 沖縄県環境科学センター



国の認証制度である J-クレジット制度を活用して沖縄県内の企業が創出したクレジットを沖縄県環境科学センターが取りまとめ、「おきなわ美ら島カーボンクレジット」としてカーボン・オフセットに使用しています。クレジット創出企業は販売の手間が省け、販売したクレジットがカーボン・オフセットに活用されることで、沖縄県内の地球温暖化対策の促進に貢献できます。また、カーボン・オフセットに取り組む企業・団体は、クレジットの購入を通じて沖縄県内企業の省エネ活動を支援することができ、環境価値の地域循環、地域活性化につながります。温暖化対策は世界的に重要な課題となっており、クレジットの創出とカーボン・オフセットの取組は、環境貢献企業としての PR や企業評価の向上等に役立てることができます。



株式会社ジェイシーシー



ジェイシーシーは、外食事業・ホテル事業・ウェディング事業等の飲食の提供を伴うホスピタリティサービスを展開しています。加えて、健康食の宅配事業により、基礎疾患をお持ちの方の健康づくりにも、食を通して貢献しています。また、開発により伐採される巨木の移植等による緑化の促進、沖縄の歴史を分かり易く編纂した琉球歴史入門書の出版・寄贈による子供たちの学びの機会づくり等、沖縄の自然や文化を守り伝えることを大切にしています。

社内の人事制度では、アルバイトを含む全社員を対象とした表彰制度や、性別によらない評価制度の導入により、アルバイトから正社員への登用数、社員の定着率、管理職に占める女性の割合等が高くなっています。業務システムの社内向け掲示板に、正社員からアルバイトスタッフまで、誰でもが改善提案や意見をオープンに掲載でき、その数は月 100 件ほどにのぼります。



【国内の事例】

ヨコハマ・ウッドストロープロジェクト (ヨコハマ SDGs デザインセンター)

ヨコハマ SDGs デザインセンターでは、横浜市が保有する水源林の間伐材を原料とし、市内企業の特例子会社等で障がい者の方々が製作する横浜製のカンナ削りの木のストロー「SDGs ストロー・ヨコハマ」の普及を進め、海洋プラスチックごみ対策や脱炭素化、新たな雇用の創出等、環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る大都市モデルの構築をめざすヨコハマ・ウッドストロープロジェクトを推進しています。

○プロジェクト概要

- ① 山梨県道志村内の横浜市が保有する水源林の間伐材を利用した木のストローの薄板を作成
- ② 横浜市内企業の特例子会社や市内の障がい者地域作業所等が薄板を巻き上げてストローを製造
- ③ 横浜市内の飲食店・ホテル等への利用促進を図るとともに、市域外への普及・展開も推進
- ④ 脱プラスチックや環境関連のさまざまなイベントで、木のストロー製作のワークショップ等を通じて、市民・事業者等への普及・展開を図る



© YOKOHAMA SDGs Design Center. All Rights Reserved

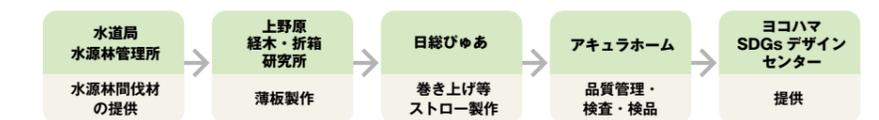
出典:ヨコハマ SDGs デザインセンター Web サイト
<https://www.yokohama-sdgs.jp/yokohama-projects/wood-straw-project/>



○環境・経済・社会面で期待される効果

- ・環境面：間伐材等を原材料とするため、森林の適正管理の観点から森林環境保全や水源林保全につながるほか、木材は成長過程に CO₂ を吸収するため、地球温暖化対策（カーボンニュートラル）にもつながります。
- ・経済面：原材料製造に関する新たなビジネス機会・雇用創出や、間伐材の利用促進による林業の活性化への貢献も期待できます。
- ・社会面：木材を利用することで、社会問題となっている海洋プラスチックごみ（マイクロプラスチック等）対策への貢献が期待されるほか、製造を高齢者や障がい者の方々が担うことで、あらゆる人が活躍できる社会の実現への貢献が期待されます。

〈原料調達から提供までの流れ〉



国立京都国際会館 (公益財団法人 国立京都国際会館)



国立京都国際会館の日本庭園は、ガーデンパーティーも開催できる自然豊かな憩いの場として、地域の方から会議参加者まで多くの方々に親しまれています。50 数年を経て、樹木の老木化が進み、鹿の食害による枯損もみられるようになったため、庭園整備の一環として、梅や桜を植樹していただける「記念植樹プロジェクト」に取り組んでおり、広く一般の方からも募集しています。また、館内のペットボトル飲料水の廃止や環境に優しい素材を使用したカトラリーへの変更、バイオマス素材ゴミ袋の活用等、「京都議定書採択の地」として、環境に配慮した取り組みを推進しています。



【国内の事例】

八剣山果樹園・NPO 法人八剣山エコケータリング



札幌市街から南西へ約 10km、八剣山の麓にある八剣山果樹園では、四季折々の自然とともにアウトドアのアクティビティが楽しめます。果物や野菜の収穫体験、乗馬体験等、動物や自然を活かしたアクティビティの他、ドイツの環境教育をテーマにしたさまざまなワークショップを提供しています。同園の敷地内をチームで巡りながら SDGs の 17 の目標について体験やクイズを通して考える SDGs ラリーの他、太陽光を利用したソーラークッキング、自然素材を用いたエコクラフト等、大自然の中でエコを体験するチームビルディングも人気です。



【海外の事例】

ハワイ ハワイコンベンションセンター



サステナブルな取り組みを映像化し訴求コンテンツとして活用

ハワイコンベンションセンターでは、「Ho'omaluo program」と呼ばれる「ゴミをゼロにする」事を目標にした取り組みをまとめた主催者向けのガイドラインを発行し、その取り組みをプロモーションに活用しています。

また、主催者向けにレガシープログラムとして植樹プログラム [Hawaiian Legacy Reforestation Initiative] を提供しています。コンベンションセンターがコミットした 100 万本の植樹プロジェクトに参画できるプログラムで、「TreeTracker technology」というシステムを活用し、植樹した木の成長を WEB で確認することができます。

出典：ハワイコンベンションセンター Web サイト
<https://www.meethawaii.com/convention-center/about/green-initiatives/>



済州 ピースビレッジ



韓国済州道にある社会福祉法人ピースビレッジが運営する同施設では、障がい者のソーセージ製造技術を磨き、職人として育てることで雇用機会の創出を支援しています。

MICE の参加者向けに、職人(障がい者)の指導の下、済州道の地元素材を使ったソーセージを製造するプログラムを提供しています。これにより、MICE 主催者と参加者は、障がい者のコミュニケーション能力の開発と第三次産業への就業機会の拡大に寄与することができます。主催者が支払う体験に係るプログラム費用は、障がい者の給与を含む施設運営費の一部として活用されています。



取り組みチェック項目について

- 取り組みチェック項目について15
- 取り組みチェック項目一覧16
- 取り組みチェック項目詳細
 - 1. マネジメント・教育19
 - 2. もの資源21
 - 3. エネルギー・水資源25
 - 4. 地域貢献27
 - 5. ダイバーシティ29
 - 6. 自然・文化31

コラム

- MICE 主催者の関心事とは?28
- SDGs とは?33
- 沖縄県内の取り組み事例
 - 株式会社アイレント20
 - ザ・テラスホテルズ株式会社24
 - 株式会社沖縄コングレ24
 - ロワジュールホテル & スパタワー那覇26
 - 一般財団法人沖縄美ら島財団28
 - 沖縄科学技術大学院大学30
 - 丸正印刷株式会社30
 - 日本トランスオーシャン航空株式会社 (JTA)32
 - ロイヤルホテル沖縄残波岬32

取り組みチェック項目について

<対象となる主体>

本ガイドラインでは、沖縄での MICE 開催に関わる MICE プレーヤーを 8 つの主体に分類しました。

主催者	発地側企画事業者 含む	会場施設	MICE 施設/イベント施設/ホテル 等
開催地企画事業者	PCO / DMC / 広告代理店/旅行会社 等	宿泊施設	ホテル/旅館/研修施設 等
技術サービス	AV・レンタル機器/設営・施工/印刷/IT 等	観光施設	観光・体験施設/アクティビティ事業者 等
飲食	ケータリング事業者/宴会場/飲食店舗 等	輸送	旅客輸送事業者/物流事業者 等

<チェック項目の難易度>

それぞれの取り組みチェック項目について、主体ごとの取り組み状況を調査分析し、その結果に基づいて難易度(高/標準)を設定しました。

主体別のピクトグラム(凡例)

難易度	主催者	開催地企画事業者	技術サービス	飲食	会場施設	宿泊施設	観光施設	輸送
高								
標準								
対象外								

<取り組みの具体事例について>

取り組みチェック項目の詳細に示した取り組みの具体事例は、セルフチェックの参考としていただく一例です。それぞれの取り組みは、主体・組織の目標、事業活動、推進体制等によって様々な手段が考えられます。ご自身の組織に適した取り組みを協議・検討・実践する際の参考としてください。

例:取り組みチェック項目 2-18 に、「紙コップを、陶器製のカップとグラスに替えた」という取り組み事例を一例として記載しています。他にも、「リサイクルが可能な紙コップやプラスチックカップ等を活用し、それらを回収して資源の再利用にあてる」等、様々な手段が考えられます。

<SDGsのゴールとの関連について>

取り組みチェック項目ごとに関連するSDGsのゴールについて代表例を示しています。取り組みの深度や広がりにより、関連するゴールの数も増えていきます。組織の中で、それぞ

れの取り組みと17のゴールとの関連について対話を行い、取り組みへの理解を深めてください。



取り組みチェック項目一覧

取り組み主体ごとに、組織の取り組み現状を把握いただくためのセルフチェックシートを、付属資料として別途ご用意しています。おきなわ MICE ナビ(Web サイト)よりダウンロード可。

1	マネジメント・教育	主体 / 難易度
1	組織の経営層が、持続可能性に配慮した経営、事業活動を理解し推奨している	
2	持続可能性に配慮した経営・事業活動方針及び体制が構築されている	
3	持続可能性に配慮した経営・事業活動の体制と共に、取り組みの現状を把握し見直しができる仕組み(PDCAサイクルを実行できる仕組み)が構築されている	
4	持続可能性に配慮した経営・事業活動方針が文書化され、推進体制、具体的な取り組み等が従業員や関係者に周知されている	
5	従業員や関係者等を対象に、持続可能性への配慮を啓発する研修や表彰制度等がある	
6	短期間・臨時で雇用するスタッフにも、持続可能性への配慮を促す教育を行っている	
7	国内外から訪れる多様な参加者への適切な対応の基盤となる倫理規範について、従業員や関係者に教育を行っている	
8	持続可能性に配慮した経営や事業運営について、地域に情報発信している	
9	持続可能性に配慮した取り組みの報告書を作成し、国内外へ発信している	
10	主催者や参加者に対し、持続可能性に配慮した対応・運営に関する情報を発信し、理解・協力を得るためのコミュニケーションツールを用意している	
11	分煙等、受動喫煙対策を行っている	

2	もの資源	主体 / 難易度
1	物品やサービスの調達に際し、持続可能性への配慮を優先している	
2	物品やサービスの調達に際し、持続可能性への配慮を優先する数値目標を設定している	
3	物品やサービスの提供者が調達する際に、持続可能性に配慮しているかを確認している	
4	地産地消を食材調達方針としている	
5	地域の製品やサービスを優先的に調達し、これについて情報を発信している	
6	ホテルや会場を選ぶ際に、廃棄物削減等、持続可能な取り組みを実践するところを優先して選んでいる	
7	会場や飲食提供事業者を選ぶ際に、フードロスを減らす取り組みを行っているところを優先して選んでいる	
8	廃棄物削減への方針や取り組み計画がある	
9	食品を含む廃棄物量の把握に努めている	
10	廃棄物の資源化を促進するための取り組みを実施している	
11	分別ごみ箱は、国内外はもとより誰もが分別を理解し、使いやすいものを用意している	
12	電子化による情報入手を促進するため、利用可能な通信設備を導入している	
13	フードロスを減らすための配慮や取り組みを行っている	

2	もの資源	主体 / 難易度
14	廃棄物を削減し、リユース等も考慮した造作物、展示ブース設置を行っている また、展示会等で使用する木材は、適切に管理された森林の木材を優先して利用している	
15	配布バックや名札ケース、ストラップ等は、再生材の利用やリサイクル性に配慮したのを選び、 名札ケースやストラップ等は再利用を行っている	
16	利用者に提供するアメニティを選択制にしている	
17	連泊するゲストには、リネン類の交換を控える等の協力を依頼している	
18	使い捨ての食器・トレー・割り箸等については、使用を減らす取り組みを行っている	
19	プラスチック製品の使用を減らす取り組みを行っている	
20	持続可能性に配慮した飲料水の提供を行っている	

3	エネルギー・水資源	主体 / 難易度
1	省エネルギー、節電、節水等に配慮した方針や取り組み計画がある	
2	省エネルギー、節電、節水等に配慮している会場・ホテル・飲食・輸送事業者を優先して選ん でいる	
3	現状のエネルギーや水の使用量を把握し、削減への見直しを行っている	
4	省エネルギー、節電、節水型機器や、雨水利用の設備を導入している	
5	省エネルギーにつながる取り組みを実施している	
6	かりゆしウエアの着用等、クールビズを推奨している	
7	環境負荷低減を実践する会場間移動を選んでいる	
8	交通アクセスは、公共交通機関やシェアリングエコノミー型サービスを紹介している	
9	電力の利用は、再生可能エネルギーを優先している	
10	環境に配慮した車両を導入し、エコドライブを実践している	

4	地域貢献	主体 / 難易度
1	地域貢献への方針や取り組み計画がある	
2	市民参加型イベント、市民と参加者の交流型イベント等を用意している	
3	開催地への寄付や寄贈、支援等、レガシープログラムを行っている また、地域住民とともに、地域社会や地域の文化、自然環境の保全に貢献できる機会を設けている	
4	地域住民の雇用を促進する方針や慣例がある	
5	地域住民の管理職への登用や雇用を促進する方針や慣例がある	
6	地域住民に雇用機会を増やすための研修が提供されている	

5	ダイバーシティ	主体 / 難易度
1	宗教的慣習への対応を行っている	
2	ダイバーシティを尊重した雇用を行っている	
3	宗教やアレルギーによる食制限に対応し、使用食材や調理法等の表示を行っている	
4	案内や表示サインは、多言語対応やピクトグラム等を活用している	
5	ユニバーサルデザインを採用した商品を優先して選んでいる	
6	[外国語対応が可能な医療機関] について情報を収集し、 外国人旅行者に域内及び周辺の医療機関に係る情報を提供している	

6	自然・文化	主体 / 難易度
1	アトラクションやパフォーマンス等は、地域の魅力を伝えるものを優先して選んでいる	
2	ギフトやノベルティ等は、地域の素材を活用し、地域の魅力を伝えるものを優先して選んでいる	
3	参加者が訪問地域への理解を深められるプログラムを優先して選んでいる	
4	地域のアート・クラフトが、施設のデザインや家具に反映されている	
5	地域の行事（祭り等）の保存に努めている	
6	野生動物の保護等に関して、参加者に観察マナーの励行を促している	
7	光害に関する対策に取り組んでいる (例：野生動物・植物・星空への影響に配慮した照明設備や運用方法 等)	
8	景観等の保全に取り組んでいる	
9	地域の自然及び文化遺産に関する情報・解説の資料が、利用可能な状態で提供されている	
10	参加者に対して、特に配慮を必要とする場所や文化的催事における来訪マナーの励行を促している	
11	従業員が、地域の自然及び文化遺産について教育を受けている	
12	参加者に対して、訪問地域での適切な振る舞いについての情報が提供されている	



取り組みチェック項目詳細

1 マネジメント・教育

1-1 組織の経営層が、持続可能性に配慮した経営、事業活動を理解し推奨している

具体事例

- 社是・社訓・ビジョン等に、持続可能性への配慮が示されている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール

全てのゴールに関わる

1-2 持続可能性に配慮した経営・事業活動方針及び体制が構築されている

具体事例

- 年度計画等で目標が示されている
- 取り組み推進の責任者が決められている
- 取り組みのための予算が組まれている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール

全てのゴールに関わる

1-7 国内外から訪れる多様な参加者への適切な対応の基盤となる倫理規範について、従業員や関係者に教育を行っている

具体事例

- 年間の教育計画の中に、多様な考え方、宗教等についてのテーマを含めている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



1-8 持続可能性に配慮した経営や事業運営について、地域に情報発信している

具体事例

- 地域のイベント等で、自社の活動を広報している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール

全てのゴールに関わる

1-3 持続可能性に配慮した経営・事業活動の体制と共に、取り組みの現状を把握し見直しができる仕組み (PDCA サイクルを実行できる仕組み) が構築されている

具体事例

- 取り組みの進捗状況を報告する会議体 (経営会議・管理職会議等) がある
- 取り組み結果の報告書が作成されている
- 目標未達の場合に、次期の目標や取り組みが見直されている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール

全てのゴールに関わる

1-4 持続可能性に配慮した経営・事業活動方針が文書化され、推進体制、具体的な取り組み等が従業員や関係者に周知されている

具体事例

- 社員に活動方針や事業計画が示されている
- 社内報や広報誌で担当者や取り組みが紹介されている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール

全てのゴールに関わる

1-9 持続可能性に配慮した取り組みの報告書を作成し、国内外へ発信している

具体事例

- 持続可能な取り組みに関する年次報告書を発行している
- 同年次報告書を自社のホームページで公開している
- 活動事例をホームページで公開している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール

全てのゴールに関わる

1-10 主催者や参加者に対し、持続可能性に配慮した対応・運営に関する情報を発信し、理解・協力を得るためのコミュニケーションツールを用意している

具体事例

- 主催者向けの利用案内や利用マニュアルに、持続可能な取り組みへの配慮を記載している
- 自社のホームページで持続可能な取り組みを紹介し、主催者や参加者に情報を発信している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール

全てのゴールに関わる

1-5 従業員や関係者等を対象に、持続可能性への配慮を啓発する研修や表彰制度等がある

具体事例

- 社員向けの研修制度がある
- 目標に照らし、その貢献度に応じた表彰制度がある

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



1-6 短期間・臨時で雇用するスタッフにも、持続可能性への配慮を促す教育を行っている

具体事例

- アルバイトスタッフにも、自社の取り組みについて教えている
- アルバイトスタッフにも研修制度がある

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



1-11 分煙等、受動喫煙対策を行っている

具体事例

- 健康増進法に基づき、分煙対策を実施している
- 施設内全面禁煙を実施している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



取り組み事例 1-1 株式会社アイレント



アイレントは、家庭用品から MICE で利用される映像機材まで、幅広いアイテムを扱うレンタル会社です。1988 年の創業当時から、「限りある資源を大切に」という企業理念のもと、事業を進めています。現在は手押し台車について、製作に必要な炭素量とレンタル回数を比較し、環境への影響を数値化する等、脱炭素化に向けた「見える化」への工夫に取り組んでいます。また朝礼や、社員全員参加による勉強会を通じ、これらの活動を推進しています。



2 もの資源

2-1 物品やサービスの調達に際し、持続可能性への配慮を優先している

具体事例

- 記念品として、間伐材を利用した木工製品を提供している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-2 物品やサービスの調達に際し、持続可能性への配慮を優先する数値目標を設定している

具体事例

- 地元農家との取引金額について数値目標を設定している
- コピー用紙の年間使用量に占める再生紙の調達割合について、数値目標を設定している
- 防災備蓄品の備蓄数量を設定し、定期的に点検している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-7 会場や飲食提供事業者を選ぶ際に、フードロスを減らす取り組みを行っているところを優先して選んでいる

具体事例

- パーティの残り時間を勘案して、ビュッフェ台を変更する等の工夫をしているホテルを選ぶ

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-8 廃棄物削減への方針や取り組み計画がある

具体事例

- ビュッフェの残量を削減する目標がある
- 印刷物の一律配布をやめ、希望者のみに配布することにした

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-3 物品やサービスの提供者が調達する際に、持続可能性に配慮しているかを確認している

具体事例

- フェアトレード製品のコーヒーを仕入れている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-4 地産地消を食材調達方針としている

具体事例

- 仕入れ先の地元生産者を増やす取り組みをしている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-9 食品を含む廃棄物量の把握に努めている

具体事例

- イベントごとに廃棄物の排出量を計測している
- 弁当の廃棄個数を計測している
- ビュッフェ料理の残量を毎回計測している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-10 廃棄物の資源化を促進するための取り組みを実施している

具体事例

- 分別ごみ箱を設置している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-5 地域の製品やサービスを優先的に調達し、これについて情報を発信している

具体事例

- 仕入れ先の地元生産者を、自社のホームページ等で紹介している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-6 ホテルや会場を選ぶ際に、廃棄物削減等、持続可能な取り組みを実践するところを優先して選んでいる

具体事例

- 食べ残しや食材ロス等を堆肥として利用しているレストランをパーティ会場に選ぶ

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-11 分別ごみ箱は、国内外はもとより誰もが分別を理解し、使いやすいものを用意している

具体事例

- ゴミ箱に、分別の内容を絵にしたシールを貼っている
- 分別するゴミの種類をピクトグラムで表している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-12 電子化による情報入手を促進するため、利用可能な通信設備を導入している

具体事例

- 無料 Wi-Fi 設備が提供されている
- デジタルサイネージを活用している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2 もの資源

2-13 フードロスを減らすための配慮や取り組みを行っている

具体事例

- ビュッフェ料理の提供方法を工夫している
- コーヒーの提供方法を、ドリップ方式からティーバッグ式に変更した

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-14 廃棄物を削減し、リユース等も考慮した造作物、展示ブース設営を行っている また、展示会等で使用する木材は、適切に管理された森林の木材を優先して利用している

具体事例

- 掲示物をマグネットで貼り付けできるパネルを用意し繰り返し利用している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-19 プラスチック製品の使用を減らす取り組みを行っている

具体事例

- 水の提供をペットボトルから水差しに替えた
- プラスチックを使わない弁当箱 (紙のボックス、箸) に変更した

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-20 持続可能性に配慮した飲料水の提供を行っている

具体事例

- マイボトル利用者に提供できるようウォーターサーバーを設置している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-15 配布バックや名札ケース、ストラップ等は、再生材の利用やリサイクル性に配慮したものを選び、名札ケースやストラップ等は再利用を行っている

具体事例

- 使用後に持ち帰り、ミニスカーフとして再利用できる紅型布製ストラップを提供している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-16 利用者に提供するアメニティを選択制にしている

具体事例

- 使い捨てのアメニティについては、宿泊者が必要なものを選ぶ仕組みにしている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



取り組み事例 2-7 ザ・テラスホテルズ 株式会社



ザ・テラスホテルズは全社で「自然との調和、自然への回帰」をコンセプトに、自然と共に生きる様々な取り組みをしています。

現在も SDGs 8 つのゴールを設定し、その達成に向けて日々取り組んでおり、その一つとして食材廃棄量を把握するための計量、仕入れや管理の徹底、自社農園や菜園で収穫した農作物の活用、食材を無駄なく活かすメニュー作り等、日々の業務をフードロス削減につなげています。



取り組み事例 2-14 株式会社沖縄コングレ



沖縄コングレは、コンベンションの開催・運営をサポートする会社です。学会では口頭発表のほかに、研究開発の成果等をまとめたポスターを掲示して行われるポスター発表があります。使用するパネルは、学会ごとに経師紙を張り替えるのが一般的です。経師紙の大量廃棄を防ぐため、同社では、協力企業との連携によりポスターをマグネットで貼り出す金属製のパネルを製作し、既に多数の再利用実績があります。



2-17 連泊するゲストには、リネン類の交換を控える等の協力を依頼している

具体事例

- リネン交換を希望する際には、ベッドに依頼カードを置くように案内している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



2-18 使い捨ての食器・トレー・割り箸等については、使用を減らす取り組みを行っている

具体事例

- ブレイクタイムに飲み物を提供する紙コップを、陶器製のカップとグラスに替えた

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3 エネルギー・水資源

3-1 省エネルギー、節電、節水等に配慮した方針や取り組み計画がある

具体事例

- エネルギー管理について経営層の会議で議論・検討されている
- ボイラーの効率管理について指示がある

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3-2 省エネルギー、節電、節水等に配慮している会場・ホテル・飲食・輸送事業者を優先して選んでいる

具体事例

- 再生可能エネルギーを積極的に利用しているホテルを会場として選ぶ

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3-7 環境負荷低減を実践する会場間移動を選んでいる

具体事例

- 会場間をつなぐシャトルバスに、EV や FCV を採用している
- 徒歩移動を推奨している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3-8 交通アクセスは、公共交通機関やシェアリングエコノミー型サービス等を紹介している

具体事例

- 「のりもの NAVI Okinawa」のホームページ・アプリを紹介している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3-3 現状のエネルギーや水の使用量を把握し、削減への見直しを行っている

具体事例

- 電力、ガス、上下水の使用量を月単位で計測している
- その結果を前年同期と比較分析し対策を講じている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3-4 省エネルギー、節電、節水型機器や、雨水利用の設備を導入している

具体事例

- 節水弁を利用して水量を減らしている
- トイレ等に、対人センサーによる照明の自動点灯設備を導入している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3-9 電力の利用は、再生可能エネルギーを優先している

具体事例

- 自社で太陽光発電を利用している
- コージェネレーションシステムを設置している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3-10 環境に配慮した車両を導入し、エコドライブを実践している

具体事例

- 停車・駐車中は、アイドリングストップを実行している
- 相乗りを奨励している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3-5 省エネルギーにつながる取り組みを実施している

具体事例

- 利用していない部屋やスペースは、空調・照明を使用しないようにしている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



3-6 かりゆしウエアの着用等、クールビズを推奨している

具体事例

- 夏の期間 (春から秋) は、かりゆしウエアで勤務することを推奨している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



取り組み事例 3-9

ロワジュールホテル & スパタワー那覇



ロワジュールホテル & スパタワー那覇は、大型の宴会場と温泉施設を備え、MICE 利用の多いホテルです。同ホテルは、メタンガスマイクロコージェネレーションシステムを利用し、クリーンエネルギーである水溶性天然ガスによりホテル内の発電を補うだけでなく、発電時の排熱を温泉の給湯にも有効活用しています。この取り組みによる二酸化炭素の削減量は年間 313 トンに及ぶとされ、地球温暖化防止に貢献しています。



4 地域貢献

4-1 地域貢献への方針や取り組み計画がある

具体事例

- 経営層が、地域への貢献についてコミットメントしている
- 社員の地域ボランティア活動を推奨している

対象 (主体分類)

主催者 企画 技術 飲食 会場 宿泊 観光 輸送

関連する SDGs のゴール

4 質の高い教育をみんなに 11 持続可能な消費と生産 16 平和と公正 17 パートナリシップを強化する

4-2 市民参加型イベント、市民と参加者の交流型イベント等を用意している

具体事例

- 公開講座を開催している
- 一般入場可能な展示会を併催している

対象 (主体分類)

主催者 企画 技術 飲食 会場 宿泊 観光 輸送

関連する SDGs のゴール

4 質の高い教育をみんなに 11 持続可能な消費と生産 16 平和と公正 17 パートナリシップを強化する

4-3 開催地への寄付や寄贈、支援等、レガシープログラムを行っている また、地域住民とともに、地域社会や地域の文化、自然環境の保全に貢献できる機会を設けている

具体事例

- 子ども食堂に食材の提供をしている
- 沖縄県内の環境保全活動に取り組む団体を支援している

対象 (主体分類)

主催者 企画 技術 飲食 会場 宿泊 観光 輸送

関連する SDGs のゴール

4 質の高い教育をみんなに 11 持続可能な消費と生産 16 平和と公正 17 パートナリシップを強化する

4-4 地域住民の雇用を促進する方針や慣例がある

具体事例

- 県内、域内で求人を行い、積極的に採用している

対象 (主体分類)

主催者 企画 技術 飲食 会場 宿泊 観光 輸送

関連する SDGs のゴール

8 働きがいと経済成長 11 持続可能な消費と生産

4-5 地域住民の管理職への登用や雇用を促進する方針や慣例がある

具体事例

- 管理職に県内出身者や県内学校の卒業生が多い

対象 (主体分類)

主催者 企画 技術 飲食 会場 宿泊 観光 輸送

関連する SDGs のゴール

8 働きがいと経済成長 11 持続可能な消費と生産

4-6 地域住民に雇用機会を増やすための研修が提供されている

具体事例

- 県内学生のインターンシップを受け入れている
- 県内、域内の人材雇用を目的に事業説明会を開催している

対象 (主体分類)

主催者 企画 技術 飲食 会場 宿泊 観光 輸送

関連する SDGs のゴール

8 働きがいと経済成長 11 持続可能な消費と生産

取り組み事例 4-3

一般財団法人 沖縄美ら島財団



沖縄美ら海水族館等を管理運営する沖縄美ら島財団は、亜熱帯性動植物、海洋文化、首里城等に関する調査研究や知識の普及啓発、公園緑地や教育施設等の管理運営を通して、市民の心身の健全な発達及び環境の保全に寄与し、地域社会へ貢献することを目的に設立されました。

様々な研究を通してサステナブルな取り組みを展開する中で、持続可能な自然利用を目指した地域への普及啓発活動として沖縄県内の環境保全活動に取り組む団体（地域自治会、ボランティア、NPO 法人、企業）等を支援する「環境保全活動支援エコクーポン事業」を実施しています。環境保全活動（河川・海岸清掃、赤土流出抑制、沖縄県内に生息する希少動植物の保護等）に参加した全員に、沖縄美ら海水族館の入館チケットとしてエコクーポンを提供しています。環境保全活動への参加を通して、一人でも多くの方に自然環境の大切さに気付いていただくきっかけづくりを目的としています。



【MICE 主催者の関心事とは?】

サステナビリティについて、主催者はどのような関心を持っているのでしょうか。オランダにグローバル本社を置き MICE 関連旅行の取扱いが多い BCD Travel が 2018 年に発表したレポートと、イベント産業における持続可能な取り組みの推進をリードする Positive Impact Events が 2019 年に発表したレポートから読み取れる関心事について、2 つの視点で整理しました。

< MICE の開催を通じて貢献したいこと >

1 開催地における地域貢献	2 SDGs への貢献 (特に関心が高いゴール)
開催地の抱える課題の解決 / 地域住民との交流 / 情報提供 / 奉仕活動 等	2 飢餓をゼロに / 4 質の高い教育をみんなに / 5 ジェンダー平等を実現しよう / 6 安全な水とトイレを世界中に / 12 つくる責任つかう責任 / 13 気候変動に具体的な対策を / 17 パートナリシップで目標を達成しよう 等
3 会場施設・宿泊施設への期待 (特に関心が高い取り組み)	4 広報制作物・プログラム開発への期待 (特に関心の高い取り組み)
省エネの照明 / 再利用可能な装飾物 / 地産地消に寄与する食材 / フードロスの削減 / 再利用可能なケータリング資材・包装 / フェアトレードに基づいたコーヒー / 植物性食品の採用 / 飲料コーナーの設置 / サステナブル認証を保有するホテル / 宿泊客が参加できる環境配慮の取組 / 会場から徒歩で移動できるホテルの選定 等	バナー等から日付や会場の記載を削除 (次回以降の再利用のため) / 再利用可能な素材 (バッジ、パンフレット等) / 社会起業家・企業からのイベントキットの調達 / リモート参加システム / 開催地のサステナブルな取組に対する寄付制度 (レガシープログラム) / 次世代を担う若者のイベント参加 (インターン等) / 差別撲滅ポリシーの策定 / 公共交通の使用を促すインセンティブの付与 / イベントにおけるサステナブル関連コンテンツの拡充 / 企画における女性の参画 (50% 以上) / イベントにおけるサステナビリティを示すレポートの作成 (主催者及びサプライヤー)

5 ダイバーシティ

5-1 宗教的慣習への対応を行っている

具体事例

- イスラム教徒向けの祈祷室を常設している
- 利用者の要望を把握し、柔軟に対応している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



5-2 ダイバーシティを尊重した雇用を行っている

具体事例

- 複数の外国籍社員がいる

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



5-3 宗教やアレルギーによる食制限に対応し、使用食材や調理法等の表示を行っている

具体事例

- ピクニック時の料理ボードに、使用食材を表示している
- 食物アレルギーを引き起こす特定原材料及び特定原材料に準ずるものの使用を表示している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



5-4 案内や表示サインは、多言語対応やピクトグラム等を活用している

具体事例

- 肉類の素材をイラストで表示している
- 使用食材について多言語で表示している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



5-5 ユニバーサルデザインを採用した商品を優先して選んでいる

具体事例

- 敷地内の案内に路面誘導サインを導入している
- 多機能トイレを設置している
- 案内サインにピクトグラムを使用している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



5-6 「外国語対応が可能な医療機関」について情報を収集し、外国人旅行者に域内及び周辺の医療機関に係る情報を提供している

具体事例

- 「外国語対応が可能な医療機関」についてリスト化し、社内で共有している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



取り組み事例 5-3

沖縄科学技術大学院大学 (OIST)



沖縄科学技術大学院大学 (OIST) は、国内外から優れた研究者を集め世界レベルの研究拠点の形成を推進しており、多くの国際学会を開催しています。過去に開催された国際シンポジウムにおいて、地元寿司店の協力のもと、持続可能な水産物として推奨される魚 (素材) や地元野菜を採用した寿司の提供を行う等、多彩な習慣や宗教等に対応しています。この事例は、プラスチックの利用削減等の持続可能な取り組みを続ける一つの転換点となりました。



取り組み事例 5-5

丸正印刷株式会社



丸正印刷は、環境負荷低減に取り組む工場の証である「グリーンプリンティング認定」と責任ある森林管理を広めるための森林認証制度「FSC 認証」を取得しており、積極的に持続可能な活動を推進しています。また、文化・言語・国籍・年齢・性別・能力等の違いにかかわらず、より多くの方々に情報を見やすく、正しく伝える配慮手法にポイントをおいた「メディア・ユニバーサル・デザイン (MUD)」の資格取得にも取り組んでいます。



6 自然・文化

6-1 アトラクションやパフォーマンス等は、地域の魅力を伝えるものを優先して選んでいる

具体事例

- パーティの終了時にカチャーシーを盛り込んでいる
- 沖縄文化に触れるエンターテインメントを採用している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-2 ギフトやノベルティ等は、地域の素材を活用し、地域の魅力を伝えるものを優先して選んでいる

具体事例

- 沖縄の工芸品で作られたトロフィーや盾を採用している
- ブレイクタイムや飲食時には、沖縄で生産されたお茶を提供している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-7 光害に関する対策に取り組んでいる (例: 野生生物・植物・星空への影響に配慮した照明設備や運用方法 等)

具体事例

- unnecessary 屋外照明を削減した

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-8 景観等の保全に取り組んでいる

具体事例

- 環境アセスメントを行い、野生生物の生活環境を破壊しないように建築の計画を行った
- 建物の設計にあたり、周囲の景観に配慮して赤瓦屋根を建築素材に用いた

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-3 参加者が訪問地域への理解を深められるプログラムを優先して選んでいる

具体事例

- 沖縄の伝統文化に触れる文化体験プログラムを取り入れた
- ビーチクリーン活動を取り入れた
- 沖縄の企業訪問を取り入れた

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-4 地域のアート・クラフトが、施設のデザインや家具に反映されている

具体事例

- 紅型や琉球ガラスをロビーに飾っている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-9 地域の自然及び文化遺産に関する情報・解説の資料が、利用可能な状態で提供されている

具体事例

- 誰もが閲覧できるガイドブックを用意している
- いつでもスタッフが配布できるリーフレットを用意している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-10 参加者に対して、特に配慮を必要とする場所や文化的催事における来訪マナーの励行を促している

具体事例

- ホームページで、世界自然遺産の森を歩く時の注意事項を発信している
- 集落の祭りを訪ねる際のマナーを記した資料を用意している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-5 地域の行事 (祭り等) の保存に努めている

具体事例

- 地域の行事 (祭り等) への参加、または支援を行っている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-6 野生生物の保護等に関して、参加者に観察マナーの励行を促している

具体事例

- 自然観察ガイドをファシリテーターにしたチームビルディングを開発した
- 希少生物の生息地等での注意事項を記した資料を用意している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



取り組み事例 6-6

日本トランスオーシャン航空株式会社 (JTA)



「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」のユネスコ世界自然遺産登録 (2021 年登録) に向けた支援を続けた JTA は、2021 年に「EVバスやんばる黄金 (くがに) 号で行くガイドツアー」を開発 (主催: (株) JALJTA セールス)。世界持続可能環境協議会 (GSTC) 基準を参考に自主ルールを策定。「EVバス」で CO2 排出削減に貢献し、低速走行で野生生物へのロードキル対策を行なう他、森に精通したガイドを採用しており、雇用創出・環境保全を通して地域経済の活性化に取り組んでおります。



取り組み事例 6-7

ロイヤルホテル 沖縄残波岬



ロイヤルホテル沖縄残波岬は、500 人以上収容可能なバンケットホールを 2 つ持つ、MICE 利用の多いホテルです。残波岬、残波ビーチに隣接し、残波ビーチの運営も行っています。隣の宇座ビーチにおいてウミガメの産卵時期には、海岸遊歩道を早めに消灯し、ビーチも 18:00 の営業終了後は消灯する等、野生動物を光害 (ひかりがい) から守る活動を行っています。このウミガメ産卵時の消灯については、近接のホテル「ホテル日航アリビラ」も共に活動をしています。



参考文献・資料 / 用語解説

参考文献・資料

○沖縄県 SDGs 実施指針

・発行者：沖縄県
・発行日：2021年9月
https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kikaku/chosei/chosei/sdgs/documents/okinawaken_sdgs_zissisisin.pdf

○日本版持続可能な観光ガイドライン

Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations, JSTS-D
・発行者：観光庁・UNWTO 駐日事務所
・発行日：2020年6月
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001350848.pdf>

○すべての企業が持続的に発展するために

－ 持続可能な開発目標 (SDGs) 活用ガイド －【第2版】
・発行者：環境省
・発行日：2020年3月
https://www.env.go.jp/policy/sdgs/guides/SDGsguide-honpen_ver2.pdf

用語解説

(五十音順)

用語	解説
ISO 20121	イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム (Event Sustainability Management Systems) の国際規格です。国際的な大規模イベントにおける環境影響や、関連するサプライチェーンにおける人権問題等への懸念から、持続可能なイベントマネジメントのあり方を提起するために開発されました。イベントの大小にかかわらず、主催者からサプライヤーまで、イベントに関係する幅広いステークホルダーを対象としており、継続的改善のマネジメントシステムによる運用の導入に参考となる指標です。
ESG 投資	従来の財務情報だけでなく、Environment (環境)・Social (社会)・Governance (ガバナンス) 要素も考慮した投資のことを指します。特に大きな資産を長期で運用する機関投資家を中心に、企業経営のサステナビリティを評価するという概念が普及し、気候変動等を念頭においた長期的なリスクマネジメントや、企業の新たな収益創出の機会を評価するベンチマークとして、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) と合わせて注目されています。
エコアクション 21 認証	エコアクション 21 は、環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステム (EMS) です。エコアクション 21 ガイドラインに基づき、環境への取り組みを適切に実施し、環境経営のための仕組みを構築、運用、維持するとともに、環境コミュニケーションを行っている事業者を認証し登録する制度です。ガイドラインは、業種別 (建設、食品、産業廃棄物、高等教育機関、地方公共団体) に設けられています。
エコラベル	商品が環境に配慮したものであることを示すラベルの総称です。
ASC 認証	ASC (Aquaculture Stewardship Council: 水産養殖管理協議会) による、養殖による水産物を認証する制度です。
FSC 認証	FSC (The Forest Stewardship Council) 認証 は、国際 NGO の森林管理協議会により、環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林からの製品を目に見える形で消費者に届け、それにより経済的利益を生産者に還元する仕組みで、明確に定められた認証範囲内で適切な管理体制を示した組織に対し発行されます。
MSC 認証	「海のエコラベル」として知られる MSC (Marine Stewardship Council: 海洋管理協議会) による、海や自然資源を守って獲られた持続可能な水産物を認証する制度です。

対象アイコン / 難易度「高」 難易度「標準」 対象外

6-11 従業員が、地域の自然及び文化遺産について教育を受けている

具体事例

●公認ガイドから指導を受けている

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



6-12 参加者に対して、訪問地域での適切な振る舞いについての情報が提供されている

具体事例

●御嶽等、神聖な場所を訪ねる際のマナーを記した資料を用意している

対象 (主体分類)



関連する SDGs のゴール



【SDGsとは?】

SDGs: Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。2015年9月に開催された国連サミットにおいて、加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されています。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

SDGs の構造

17のゴールは、①貧困や飢餓、教育など、未だに解決を見ない社会面の開発アジェンダ、②エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消等すべての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済アジェンダ、そして③地球環境や気候変動など、地球規模で取り組むべき環境アジェンダといった世界が直面する課題を網羅的に示しています。SDGsは、これら社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17のゴールを、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

(外務省 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf)





用語解説

用語	解説
おきなわ SDGs パートナー	沖縄県では、2019年11月に「沖縄県 SDGs 推進方針」を策定し、様々なステークホルダーとのパートナーシップのもと、SDGsの普及啓発に取り組んでいます。SDGsの達成に向けた取り組みを行うとともに、県民に向けたSDGsの普及活動を行う企業・団体を「おきなわ SDGs パートナー」として登録しています。(2021年11月現在:312団体) (おきなわ SDGs パートナー Web サイト: https://www.okinawa-sdgs.jp/)
カーボン・オフセット	日常生活や経済活動において避けることができないCO ₂ 等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。
グリーン購入	製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。 グリーン購入は、消費生活等、購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。
グリーンプリンティング認定制度	日本印刷産業連合会が制定した印刷業界の環境自主基準「印刷サービスグリーン基準」です。グリーンプリンティング認定制度(略称:GP認定制度)は、本基準を達成した工場・事業所を認定、環境経営に積極的な印刷関連企業として推奨するとともに、同基準に適合した印刷製品にグリーンプリンティングマーク(GPマーク)を表示することにより、環境に配慮した印刷製品が広く普及することを目的としています。(https://www.jfpi.or.jp/greenprinting/)
COP26	COPは、国連気候変動枠条約への加盟国が、1995年から毎年開催する会議(締約国会議)です。COP26は、「国連気候変動枠組条約第26回締約国会議」で、2021年11月、グラスゴーで開催されました。 世界の平均気温の上昇を1.5度未満に抑えるための削減強化を各国に求める「グラスゴー気候合意」が採択され、2015年に採択されたパリ協定のルールブックが完成しました。また会期中に観光における気候変動対策に関する「グラスゴー宣言」が発表されました。この宣言は、観光分野における気候変動対策を加速し、今後10年間で観光部門での二酸化炭素(CO ₂)排出量を半減させ、2050年までに「ネット・ゼロエミッション」を達成するための強力な行動をコミットすることを目的としています。
GSTC Criteria	Global Sustainable Tourism Council(グローバル・サステイナブル・ツーリズム協議会)による持続可能な観光に関する認証基準です。 持続可能なマネジメント、社会・経済、文化遺産、環境の4分野について地域(Destination)を対象に全38基準からなる「GSTC-D」と、産業(Industry)を対象に全26基準からなる「GSTC-I」で構成されます。
The GDS Index	GDS-Movementが展開するGDS-Indexは、地域(Destination)のためのプログラムです。地域の社会的・環境的パフォーマンスの現状を評価し、パフォーマンスの改善・促進を目的としています。日本では札幌、京都が参加しています。
シェアリングエコノミー	個人等が保有する有形・無形の資産を、他の個人等も利用可能にする(シェアする)経済活動のことです。
J-クレジット制度	省エネルギー機器の導入や森林経営等の取り組みによる、CO ₂ 等の温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。 本制度は、国内クレジット制度とオフセット・クレジット(J-VER)制度が発展的に統合した制度で、国により運営されています。 本制度により創出されたクレジットは、低炭素社会実行計画の目標達成やカーボン・オフセット等、様々な用途に活用できます。(https://japancredit.go.jp/)

用語	解説
3R	Reduce、Reuse、Recycleの3つのRの総称です。 Reduce(リデュース)は、製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。耐久性の高い製品の提供や製品寿命延長のためのメンテナンス体制の工夫等も取り組みのひとつです。 Reuse(リユース)は、使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること。その実現を可能とする製品の提供、修理・診断技術の開発、リマニュファクチャリング(寿命を終えた製品から、利用できる部品を取り出し、新品同等の性能を持つ製品に作り上げ、提供すること)等も取り組みのひとつです。 Recycle(リサイクル)は、廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用すること。その実現を可能とする製品設計、使用済製品の回収、リサイクル技術・装置の開発等も取り組みのひとつです。 (3R推進協議会 https://www.3r-suishinkyogikai.jp/intro/3rs/)
ゼロエミッション・ビークル	走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)のことです。
光害(ひかりがい)	良好な照明環境の形成が漏れ光によって阻害されている状況、またはそれによる悪影響のことです(一般社団法人照明学会)。 環境省では、屋外照明の適正化等により良好な光環境の形成を図り地球温暖化防止に資することを目的に「光害(ひかりがい)対策ガイドライン」を策定しています。 (http://www.env.go.jp/air/hikarigai-gaido-R3.pdf.pdf)
フードロス	本来食べられるものなのに捨てられてしまう食料を指します。
フェアトレード	発展途上国でつくられた製品を適正な価格で取引し、貧困地域の労働者の生活向上を目指す取り組みです。
プラスチックスマート	海洋プラスチックごみによる地球環境への影響を認識し、生活の中でプラスチックと賢く付き合うことを意識して考え取り組むことで、環境省が2018年に立ちあげたキャンペーンです。 (http://plastics-smart.env.go.jp/about)
ユニバーサルデザイン	文化・言語・国籍・年齢・性別・能力等の違いにかかわらず、できるだけ多くの人が利用できることを目指した建築(設備)・製品・情報等の設計(デザイン)のことであり、またそれを実現するためのプロセス(過程)を意味します。
レスポンシブルツーリズム	レスポンシブルツーリズム(責任ある観光)とは、観光に携わるすべての人が、その土地の環境や文化等に与える影響に責任を持つべきであるという考えのもと、より良い観光地をつくる動きのことです。より旅行者側にサステナビリティ(持続可能性)を意識してもらうことを重視しています。

「沖縄 MICE 開催における サステナビリティガイドライン策定委員会」委員名簿

氏名	所属 / 役職
委員長 加藤 久美	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山大学 観光学部 教授 ・GSTC (Global Sustainable Tourism Council) 理事
金田 翔吾	<ul style="list-style-type: none"> ・PCMA (Professional Convention Management association) Regional Vice President (日韓代表理事)
森田 洋平	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄科学技術大学院大学 研究支援ディビジョン カンファレンス・ワークショップ・セクション 学術連携推進シニアマネジャー 理学博士
岩村 俊平	<ul style="list-style-type: none"> ・一般財団法人沖縄県環境科学センター 業務部長 兼 SDGs 事業実行班長
ジョンソン 美枝	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社沖縄コングレ 専務取締役

(順不同 / 敬称略)



<デザイン解説：風車 (かざぐるま)>

沖縄では、旧暦9月7日、または9月9日に数え 97 歳の生年祝いとして風車 (カジマヤー) と呼ばれる盛大な祝宴が開かれます。カジマヤーを迎えると、人は再生し童心に戻るという言い伝えで、風車を持たせたことにその名は由来します。

この風車のように草の葉を組み合わせ、風をうけて回る様を、持続可能な取り組みがしっかりと結ばれ、沖縄から世界へ、風を起こしていく様と重ねてイメージしています。

編み込み (パートナーシップ) /

回転 (前進・PDCA) /

風 (持続可能性・進取の気性)

沖縄 MICE 開催における
サステナビリティガイドライン

(2023 年 2 月発行)

<発行>

沖縄県

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

<編集・制作>

株式会社DMC沖縄

<お問い合わせ先>

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

海外・MICE 事業部 MICE 推進課

TEL : 098-859-6130

E-mail : mice@ocvb.or.jp



おきなわ MICE

検索

